

臨床倫理委員会 議事要旨

日 時：令和 7 年 9 月 8 日（月） 16 時 20 分～17 時 00 分

場 所：第一会議室

出席者

委員長：統括診療部長

委 員：病棟部長、外来部長、地域医療・情報部長、手術部長、事務部長、看護部長、
薬剤部長、企画課長、経営企画室長

オブザーバー：院長、副院長

事務局：管理課長、庶務班長

（審議議題 1）

- ・超音波内視鏡下瘻孔形成術（EUS ガイド下ドレナージ等）の実施について
（消化器内科医長）

1) 概要

超音波内視鏡（EUS）を用いて消化管から胆嚢や胆管等へ穿刺し、ドレナージを行う治療手技である。急性胆嚢炎、膵仮性嚢胞、ERCP 困難症例等に対する新たな治療選択肢として導入を検討するもの。

2) 委員からの意見

- ・外科的治療や従来の経皮的ドレナージが困難な患者に対して有用性が高い。
- ・高度な技術を要し、重篤な合併症の発生リスクもあるため慎重な導入が必要。
- ・北里大学等の専門施設と連携しながら段階的に実施することが望ましい。
- ・外科との連携体制及び症例検討を十分に行うべきである。
- ・術前・術後の情報共有を徹底し、安全管理体制を構築する必要がある。

3) 審議結果

本手技の有用性を認め、十分な安全管理体制及び関係診療科との連携を前提として承認。

（審議議題 2）

- ・内視鏡的経乳頭胆のうドレナージ（ETGBD）の実施について（消化器内科医長）

1) 概要

ERCP を用いて胆嚢管経由で胆嚢内にドレナージチューブを留置し、感染胆汁の排出を行う手技である。外科的治療や経皮的ドレナージが困難な症例への適応を想定している。

2) 委員からの意見

- ・急性胆嚢炎患者に対する低侵襲な治療法として有効である。
- ・胆嚢管穿通等の合併症リスクがあり、特に導入初期は慎重な運用が求められる。
- ・実施前のカンファレンスによる症例検討が望ましい。
- ・術後管理及び治療成績の確認体制を整備する必要がある。
- ・専用の同意説明文書及びオーダー体系を整備し、適切な運用を行うべきである。

3) 審議結果

本手技の実施について承認した。実施に当たっては症例検討体制及び術後評価体制の充実を図ること。

(審議議題3)

- ・動脈の Intravascular Lithotripsy (IVL) 治療の実施について(循環器内科医長)

1) 概要

重度石灰化病変に対し、バルーン内から衝撃波を発生させ石灰化を破砕する治療法。ステント拡張を容易にし、治療成績の向上を目的とする。

2) 委員からの意見

- ・石灰化病変治療における有効な治療選択肢である。
- ・従来のロータブレード等に比べ、安全性及び操作性の面で有用性が期待される。
- ・保険適用があり、学会による施設要件も満たしている。
- ・導入に当たり特段の倫理的問題は認められない。

3) 審議結果

本治療の導入について承認。

(審議議題4)

- ・ニコランジル及びニトロプルシドの冠動脈内注入について(循環器内科医長)

1) 概要

冠動脈インターベンション時に発生するノーリフロー現象等に対し、ニコランジル及びニトロプルシドを冠動脈内へ直接投与する適応外使用について審議した。

2) 委員からの意見

- ・全国的にも広く実施されており、学会ステートメント等で有効性が示されている。
- ・血圧低下等の副作用に留意しながら適切に使用する必要がある。
- ・オプアウトによる対応よりも、治療説明・同意文書の中に適応外使用について

明記し、事前同意を取得する方が適切であるとの意見があった。

- ・患者及び家族への十分な説明を行うべきである。

3) 審議結果

適応外使用については、オプアウトではなく、心臓カテーテル検査・治療に関する説明文書及び同意書へ記載し、包括的な同意を得る形で運用にて承認された。